

平成 22 年度 第 1 回 櫛引地域審議会 会議録



期 日：平成 22 年 6 月 29 日(金) 13:30～

場 所：櫛引公民館多目的ホール

1、開 会

(13時:30分)

平藤 博巳次長（以下次長）

お待たせいたしました。皆様にはご多用のなかご出席いただきまして誠にありがとうございます。開会に先立ちましてこの度櫛引地域審議会委員としてご委嘱申し上げます皆様へ山本副市長から辞令を交付させていただきます。

～山本副市長から委員に辞令交付～

次長

どうぞ宜しくお願いいたします。お手元の資料の地域審議会2ページ目に委員の名簿が記載されておりますが、本日欠席の連絡を受けておりますのが齋藤賢一委員、それから成田新一委員の両名でございます。なお、五十嵐繁委員が若干遅れる旨連絡いただいております。

全員おそろいでございますので、ただ今より平成22年度第1回櫛引地域審議会を開会いたします。櫛引庁舎次長の平藤と申します。会長が選出されるまでの間進行を勤めさせていただきます。審議会の開催に当たりまして山本副市長よりごあいさつ申し上げます。

2、あいさつ

山本 益生副市長

それでは、鶴岡市長は本日上京しておりまして、出席できませんので代わりに副市長の山本ですけど簡単ではありますが、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様にはご多用のところ平成22年度第1回櫛引地域審議会にご出席を賜り誠にありがとうございます。この度の審議会は委員改正に伴い新たに公募による選出委員を含め20名の方々より審議会の委員をお引き受けいただき心から感謝申し上げます。

新市が発足して早5年を迎えようとしております。この間大きな混乱もなく今日まで市政運営が行われたものと考えており、このことはひとえに市民皆様のご理解とご支援の賜物であり、審議会委員皆様に重ねて感謝申し上げます。

市町村合併により、全国有数の広い面積となった本市はそれぞれの地域が多彩な魅力を持ち、更なる発展の可能性に富んだ地域であり、本市の優れた特性や資源、歴史、文化そういった産業を活性化しながら市民の皆さん、地域の皆さんそして行政が力を合わせて総合力を発揮していかなければならないと考えております。日頃から様々な場面でご活躍いただいている皆さんからは是非お力添えをいただき、よりよい鶴岡市を築き上げていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

今後の地域の支援法でございますが、平成20年度に新たな策定しました鶴岡市総合計画を基本としながら合併の基本理念であります各地域の多様性の発揮を実現するために引き続きそれぞれの地域が持つ特性を最大限に活かした街づくりを行ってまいりたいと考えております。今年度はこれまで地域づくりの成果を考えながら地域庁舎におきまして地域の課題や問題点の解決を図るため調査や政策検討を引き続き進めていくとともに、地域振興ビジョンや先駆的な事業などの具体的な取り組みを行い、地域の活性化を図って参るものがございます。本日開催の地域審議会においては、これまでは年1回の開催により当該年

度の主要事業について説明をしまいましたが、それぞれのお立場から地域の現状や課題についてご意見をお伺いするせっかくの機会でございますので、今年度より協議のテーマを設定し、地域の活性化に向けた具体的な取り組みについて議論いただきたいと考えております。既に**21**年度からは市長が直接住民の皆様と懇談する機会として「車座ミーティング」を開催しておりますし、今後は地域審議会での意見をはじめ、職員が地域に出向いて地域の声をお聞きしながら事業の立案を行い、地域づくりについてより一層取り組みを進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくご指導をいただきたいと思っております。さらに平成**27**年度は合併から**10**年が経過し合併特例期間が切れます。それ以降どういふうに行財政を運営していかねばならないか、今から考えなければいけない時期にきており、今年度行財政改革推進委員会を設置し、市民の目線により将来の行政システムについて活発にご議論いただくことを予定しており、第1回目の会議の開催をしておるところでございます。会議では市町村合併をいかした効率的な行財政システム、あるいは市民・地域・行政の総合力をいかに発揮できるのか、また地域の活性化にむけた地域庁舎のあり方などについて提言、ご意見をいただき市民と行政が協力して行財政改革に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。この地域が誇りを持って住んでみたい、また住み続けたいという地域に、お互い作ってまいりたいと考えておりますので、審議会をはじめ、様々な機会をとらえて、どうぞきたんのないご意見をいただきたいと思っております。そのことを切にお願いしましてご挨拶にさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3、委員紹介

次長

ありがとうございました。それでは、3の委員の紹介をさせていただきます。2枚目に委員名簿がございます。本日は最初の会でございますので、委員の紹介と併せまして当局の紹介もさせていただきます。

まず委員の紹介をさせていただきます。櫛引区長会会長として齋藤三紀委員、櫛引自治公民館連絡協議会会長上野進委員、株式会社産直めぐり代表取締役澤川宏一委員、出羽商工会代表理事渡会昇委員、櫛引観光協会会長松浦安雄委員、鶴岡市社会福祉協議会理事佐久間泰子委員、櫛引地区民生児童委員会会長田中敦委員、櫛引PTA連合会会長鈴木太一郎委員、櫛引体育協会会長金内勝雄委員、荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会副会長小林良市委員、櫛引地域婦人会会長畑山久恵委員、鶴岡市消防団櫛引方面隊隊長伊藤信委員、次に公募枠であります、松根塾塾長成田勇委員、ふるさとむら宝谷運営管理組合組合長遠藤一男委員、NPO法人庄内アインシュタインの会理事長宅井きく委員、庄内医療生協櫛引支部支部長芳賀俊之委員、最後に鶴岡まちづくり塾塾生阿部元喜委員。

次に当局の方ご紹介します。先程ご挨拶申し上げました副市長山本益生であります。支所長の山口朗、企画部長小林貢、櫛引庁舎産業課長今野勝吉、同じく櫛引庁舎市民福祉課長本間俊司、同じく健康福祉主幹難波貢、市役所地域活性化推進室長吉住光正、櫛引庁舎教育課長八重幡久喜、建設環境課長佐藤正和、総務課総務地域振興班主査菅原正一、調整

課課長補佐佐藤光治、地域活性化推進室係長粕谷一郎、庁舎総務課総務地域振興班主事梅津一成、同じく主事佐藤文博、私が次長を兼ねて総務課長平藤博巳です。どうぞ宜しくお願いいたします。

4、会長・副会長の選出

次長

次に4の会長・副会長の選出についておはかりいたします。櫛引地域審議会を構成する構成員の定数、任期などについては合併関係市町村の協議により定めることとされておりまして、協議書第6条によれば審議会会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定めるとされております。互選の方法についておはかりをしたいと思います。どなたかご意見はございませんでしょうか。

田中 敦委員

はい。

次長

はい、田中委員。

田中 敦委員

大変ご苦勞をおかけしますが、従来どおり区長会の会長さんと婦人会の会長さんをお願いしたらいかがでしょうか？

次長

ただいま田中委員より会長に区長会会長になります齋藤三紀委員、副会長に婦人会会長の畑山久恵委員を推薦する旨提案いただきました。ほかにごございませんでしょうか。ないようでございますので会長に齋藤三紀委員、副会長に畑山久恵委員を選出することに決定してよろしいでしょうか。

会場拍手

次長

満場の拍手で決定されました。ありがとうございます。それでは齋藤三紀委員には会長席に着席願います。それでは会長からご挨拶を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

齋藤 三紀会長（以下会長）

一言ご挨拶申し上げます。ただ今選任いただきました区長会会長齋藤三紀です。よろしくお願い申し上げます。大変力不足ではありますが、皆様のご協力いただきながらまとめ役として宜しくお願い申し上げます。実は先程もお話あったようですが、合併してから5年目を迎えるわけですが、私も数年間審議委員の一人として関係しておりました。その中で色々と疑問もございましたし、果たしてこのままでいいのなかと考えることもございました。年に1度の会議でありましたので、市長が就任したということでその大綱を説明いただいて皆さんから質疑応答して終えたというのが従来の進め方のように記憶しています。委員の人数も10人くらいから発足したのがこのような形で今日を迎えることができました。今年度の会は内容が変わり年3回くらいを計画されているという話でありますし、

女性の方や、若い方など幅広く参加いただいて、大いに地域発展に取り組み、どういう姿がいいのか議論の場として私は改革されたと思います。皆さんからの活発な意見を期待します。よろしくお願いいたします。

次長

ありがとうございました。ただいま五十嵐繁委員が出席されましたのでご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、報告に入る前にお手元の資料について確認をさせていただきます。まず名簿と3枚綴りの地域審議会の次第でございます。それから資料1が「平成22年度予算の概要及び主な事業の概要」、資料2が「平成22年度櫛引庁舎主要事業調書」、これは5ページまでの資料でございます。それから後程支所長から概要説明いたしますけど、「平成22年度鶴岡市予算特集号」、鶴岡市の広報特集号でございます。資料3、A4版の横とじ2枚の資料でございますけど「H22 櫛引地域 地域振興対策事業3つの柱」、資料4が「庁舎別地域振興関連事業・各種調査事業」でございます。それから委員の皆様には「鶴岡市総合計画3か年実施計画」の冊子を当日の配布資料として配布しております。もし資料が不足してございましたら準備いたします。よろしいでしょうか。それでは協議書第7条第3項の規定によりましてこの会の議長は会長が勤めることとなっておりますので、ここからは齋藤会長さんに審議会の進行についてお願いします。

5、報告

会長

それではただ今から報告に移りたいと思います。(1)平成22年度予算及び主な事業の概要についてから説明をお願いします。

山口 朗支所長

はい、それでは改めまして櫛引庁舎支所長の山口です。よろしくお願いいたします。私からは平成22年度予算及び主な事業概要につきまして市全体の基本的な考え方、主要な政策課題を中心に説明をさせていただきます。後に各担当管理職から櫛引庁舎所管事業につきましてご説明をさせていただきます。

それではまずカラー刷りの資料「平成22年度予算特集号」をご覧ください。2ページ目をお開きください。始めに予算編成にあたってということで、榎本市長の市政運営の基本方針をお示ししております。まず1点目が合併してよかったと実感できるように街づくりを推進するということでもあります。合併後これまでは新鶴岡市としての一体感の醸成に努めてまいりましたわけですが、これからは合併してよかったと実感していただけるような施策を重点的に実施してまいります。一方2点目としましては先程副市長からも挨拶がございましたが、合併特例期間の終了を見据えまして一層の財政健全化に取り組むということでございます。そして3点目は、市民の皆様の声を市政に活かしていこうということでございまして、4点目は行政施策の継続性を大切にしていまいります。

次にこうした基本方針を基に今年度当初予算に盛り込みました政策的な課題と重要事業などにつきまして申し上げます。まず1点目は5つの鶴岡ルネサンス宣言でございます。これは市政一層の発展のために本市の有する豊かな自然、歴史、文化といった資源を新し

い観点から市民の皆さんと一緒に活用していこうと榎本市長が掲げてまいったもので、新年度予算の政策の中核となっております。4ページをお開きください。その宣言その1ですが、創造文化都市、これは農業の6次産業化など様々な地場資源を活用して本市の可能性を伸ばしていこうというものであります。その2は観光文化都市であります。これは観光による人と人とのつながりを大切にして、交流人口の増加を図ろうというものでございまして、観光大使任命事業、このほか体験観光やグリーンツーリズムを推進してまいるものであります。その3が学術文化都市、これは本市に所在します高等教育機関を戦略的資源として地域振興にいかしていこうというものであります。その4は安心文化都市、子供からお年寄りの皆様までその暮らしに関わる環境を防災面も含めて整備しようというものでございまして、健康診断受診率日本一を目指すための調査検討事業を実施いたしますほか、朝日地域においてケーブルテレビを活用した音声告知整備の導入を行うものでございます。そして5つめ森林文化都市でございますが、これは恵まれた自然を生かし、自然と共に生きる地域づくりを進めていこうというもので、鶴岡の森保育事業、森林環境推進事業や、六十里越街道などをテーマにしました取り組みについて支援してまいるものでございます。

次に、大きい2点目でございますが、各地域の振興事業であります。これは後からご説明申し上げますが、これまで各地域庁舎で進めてまいりました地域振興ビジョン推進事業、さらに地域の自然や歴史・文化などの資源を活用した先駆的進行事業を加えまして地域活性化推進事業としまして地域庁舎の予算が拡充されたものであります。3点目でございますが、調査研究事業ということで地域庁舎関係では地域庁舎職員が住民の生の声を聞いて地域課題を解決し、地域振興に取り組んでいけるようにとの予算が新たに盛り込まれましたほか、地域農業と地域コミュニティに関する調査研究についても引き続き重点的に進めてまいります。

次に6ページをお開きください。最後に各種の計画づくりであります。男女共同参画計画策定事業などに引き続き取り組んでまいりますほか、これからは新たに定住自立圏構想推進事業、学校適正規模検討事業などにも取り組んでまいります。

続きまして平成22年度当初予算についてであります。これにつきましては3ページにお戻りいただきまして、3ページの上段「会計別内訳」という表がでございます。その表をご覧くださいと思います。まず予算規模であります。一般家計の総額が**593億7,600**万円、対前年比**0.0**減となっておりますが、**400**万円の減ということで対前年当初比較増額となっております。特別会計は国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、公共下水道などを含め合わせて**11**の予算の合計額が**340億9,616**万円で対前年当初比較では**0.6**の増となっております。企業会計では病院、水道ですが合計額**195億9,507**万円、対前年当初比で**1.6%**の増となっております。次に主な事業であります。この資料の最後のページ、裏表紙をご覧ください。ここに平成22年度主な事業ということで一覧標記しております。まず、先程申し上げました鶴岡ルネサンス関連宣言事業であります。4つめでございます。安心文化都市の消防本部・本署庁舎新築事業であります。建設地は美咲町地内、高速道路鶴岡インターで昨年からの着工してございまして、来年4月の完成を目指しております。そ

の下の森林文化都市庄内自然博物館（仮称）整備事業であります。ラムサール条約の指定を受けました大山下池周辺に平成**24**年度開設を目指していよいよ本格的に着手することになったのでございます。次に下の方、分野別の事業ということで、下から3番目健康福祉分野の事業鶴岡市総合保険福祉センター管理運営事業であります。このセンターは健康福祉の街づくりの拠点施設ということで4月1日にオープンいたしました。保健センターの核といたしまして、子供家庭支援センター、障害者相談支援センター、社会福祉協議会事務局、休日夜間診療所、休日歯科診療所、第3学区コミュニティセンター、多くの施設が入居しています。次に右の方にいきまして、教育文化分野であります。年次的に進めてまいりました小中学校の改築事業、今年度は朝陽1小、大山小、朝陽4小、羽黒中について進めてまいります。また、4月**29**日に開館しました藤沢周平記念館であります。この施設ご覧になった方も多いかと思いますけれども、作品や資料のほかに藤沢先生が実際に使用されました机や書棚を配置した書齋を再現されておりますし連日北海道から九州まで全国各地から大勢の方がお見えになっております。このほか記載のとおりソフト面も含めまして各分野各班にわたる事業を積極的に進めてまいることとしています。平成**22**年度の当初予算の概要につきましては簡単であります。以上にさせていただきますが、さらに現在の厳しい社会情勢、経済情勢をかんがみまして先週閉会いたしました6月市議会の定例会で議決されました補正予算また国の臨時交付金事業なども併せまして、引き続き地域経済の産業振興のために最善を尽くしてまいりますのでご理解をいただきますようよろしくお願い申し上げます。私からは以上でございますが、引き続きまして櫛引庁舎課所管の主な事業の内容につきまして各管理職の方からご説明を申し上げますのでよろしくお願い申し上げます。

次長

それでは資料2によりまして庁舎管内の主要事業につきまして説明をさせていただきます。平成**22**年度庁舎主要投資事業（1）**21**年度繰越明許分ということで総務課から申し上げます。ケーブルテレビ中継設備二重化工事でございますが、ご承知のとおり平成**18**年度から朝日地域でも視聴ができるようになりました。ただ、システムの二重化が行われておりませんことから、機器が故障した場合朝日地域全域で放送が視聴できなくなるおそれがございますので、それを解消するために、バイパスとして二重化工事を実施することとあります。それからもう1点は田代地区に有蓋耐性貯水槽1基**40**トンを設置するという内容でございます。以上でございます。

産業課 今野勝吉課長（以下産業課長）

産業課長の今野と申します。私からは産業課分ということで引き続き**21**年度分からの繰越分ということでございます。豪雪被害対策支援事業補助金でございますが、昨年**12**月の豪雪被害を被ったさくらんぼ・ぶどうの雨よけ施設、梨については梨棚のほか、苗木、土地改良費等の更新補修に対する支援でございます。補助率はさくらんぼ、ぶどうについては県・市それぞれ三分の一の合わせて三分の二、梨については県・市合わせて四分の三となっております。また梨の県補助金については、**22**年度分の当初予算に計上されております。次に、農業施設補修事業として農道舗装2路線でございます。この事業は平成**21**年**12**

月に閣議決定されました緊急経済対策において創出されたきめ細やかな臨時交付金を財源として実施するもので、次に記載されていますくしびき温泉ゆ〜Town 揚湯ポンプ関連の事業、それから横綱柏戸記念館屋根等補修工事についても同様でございます。事業内容でございますけど、ゆ〜Town の揚湯ポンプにつきましては、定期的なメンテナンスとなっておりますし、柏戸記念館も記載のとおりでございます。

建設環境課 佐藤正和課長（以下建設環境課長）

それでは建設環境課所管につきまして3件あります。まず始めに公共事業ということで上山添三千刈線自歩道整備工事についてですが、この路線につきましては庁舎前の市道で県道 代鶴岡線を起点としまして県道板井川下山添線までの区間延長にして **1,150** ㎡の道路両側に **3.5** ㎡の自歩道を配置整備する計画で、平成 **16** 年から事業を進めてまいりました。三千刈方面から進めてまいりましていよいよ事業の最終年度と言うことで、残りの延長 **230** ㎡のうち **140** ㎡分を繰越事業ということで今月末の工期でほぼ終了しております。次に道路新設改良事業の舗装1路線、これにつきましては、市道中学校板井川線の東荒屋小島地内道路の痛みが激しい所約 **300** ㎡区間に舗装をかける表層改良工事を行いました。工事は終了しております。3件目ということで除雪対策事業になりますけど、桂荒俣にあります除雪機械格納庫の屋根の葺き替え工事でございます。この格納庫は昭和 **53** 年に建築されたもので、その屋根部分、トタンが経年により劣化しまして、葺き替えして建物の長寿化を図る計画で工事を予定しております。以上3件でございます。

教育課 八重幡久喜課長（以下教育課長）

それでは教育課主管事業についてご報告申し上げます。6点ありますけど、まず櫛引総合運動公園野球場スコアボード改修工事であります。平成3年に設置したもので、**19** 年経過しており耐用期間過ぎていたということでありましてこの度無線操作方式で更新するものであります。財源はきめ細やかな臨時交付金で対応するということでもあります。2点目は同じく運動公園にあります東屋改修工事ということで木造の平屋建てですが、腐食して大変危険であるということで、改修を図るものであります。3点目ではありますが、櫛引公民館多目的ホールの床改修工事であります。**30** 年も経過しておりまして、床がはがれてきておりまして、全面張替えするものです。同じく多目的ホールの屋根周辺工事であります。ステージ西側が屋根材の腐食が進みまして雨漏りがするということもありまして、一部、屋根の葺き替え、それからホール屋根全面の塗装改修であります。5点目の同じく公民館の空調設備交換改修工事であります。やはり **30** 年も経過していることで配管関係あるいは周辺が老朽化しているということで、機器類の交換をするものであります。最後に公民館ステージ幕ギアボックス交換修繕工事であります。やはりこれも経年劣化によりましてギアボックスが油漏れしているということで、これらの強化をするものです。以上であります。

次長

以上、維持修繕が主な事業でありますけど繰越明許分で事業費が1億 **2,372** 万円であります。

次に(2) **22** 年度当初予算計上分について説明申し上げます。まず総務課であります、

消防の普通積載車更新ということでありまして、配置してから**24**年経過しました2分団1部の東北地区に配備をする積載車であります。**290**万円でございます。

産業課長

引き続き産業課関係でございますけど、最初の活力ある園芸産地創出支援事業につきましては、先程申し上げました市に対する支援の県補助分でございます。次の果樹経営支援対策事業、国庫補助事業でございますが、優良品種への改植や、かん水施設の整備等をメニューとする果樹経営支援対策事業につきましては、現在予定されているものはさくらんぼ園のかん水施設でございます。それから3ページ目農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業、この事業は県が昨年度から実施しているもので、農林業者の皆さんの創意工夫に富んだプロジェクト計画実現に向け事業メニュー、補助要件を必要以上設定せず支援していくオーダーメイド型の新しい取り組みです。櫛引農工連さんが取り組む事業でございます、支援するものでございます。次の市単独土地改良事業でございますが、暗渠排水、農道整備、区画整備、かんがい排水等の整備に対して支援するもので、**10a**あたりの事業費が5万円以上、総事業費**30**万円以上**150**万円以下といった要件になっております。今年度は1～2か所の事業を予定しております。

建設環境課長

続きまして、建設環境課の事業でございますけど、道路公共事業ということで、先程上山添三千刈線自歩道整備の繰越事業の続きとしまして、残り**90**万円を施行する予定でございます、このお盆過ぎに発注を予定しております。これによりまして、雪が降る前には全線完了したい考えであります。次に宮の根臼井線改良工事であります。上山添三千刈線同様、継続事業ということで、全体工事延長**830**万円ございまして、うち**680**万円ほど完成しております。今年度も引き続き臼井橋手前まで約**145**万円工事を行いまして平成**23**年度完了を目指し工事を進めております。道路新設改良事業では、舗装1路線、これは市道成沢田代線の田代地内の表層改良工事でございます。改良1路線、これは市道馬渡南線の1路線、及び側溝整備1路線につきましては、市道山方線春日山地内の側溝整備するということと予定しております。なお、表層改良工事につきましては今月中旬に完成しております。さらにその下、道路維持事業、舗装補修、側溝整備、交通安全施設整備、主にセンターラインや外側線を引き直す作業ですけど、それと橋梁維持工事の継続事業として黒川橋の補強整備、さらに河川維持事業の集落排水内の整備などにつきましては昨年度並みの予算計上をして事業を進めてまいります。以上です。

産業課長

次に(3)**22**年度6月補正予算計上分でございます。最初に産業課でございますけど、活力ある園芸産地創出支援事業の梨棚等につきましては先程来説明した事業の事業量の増加に対応するものでございます。追加分の枝豆管理機・脱粒機につきましては**JA**たがわ農協さんで導入を予定しているものでございます。次のさくらんぼ産地強化対策事業につきましては、既存雨よけ施設の機能向上のための、新設・更新補修に対する支援で、補助率につきましては3分の1以内ということになっております。次の農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業につきましては先程もありましたが、農林業者の皆さんの創意工夫に富ん

だプロジェクトを支援するものでこちらは産直めぐりが取り組む事業の追加採択分となっております。

建設環境課長

続きまして建設環境課 1 件でございます。道路公共事業ということで松根羽黒線表層改良工事でございます。ご承知のとおりこの路線は通称スーパー農道として昭和 49 年に供用開始したわけですが、広域的な産業観光道路として大型車両の通行が非常に多く、路面の損傷が激しいため平成 16 年度から本格的な道路改良工事を行いまして、今年度ようやく 200 年を行いまして全線整備済みとなる見通しです。全延長にしまして 5,300 年ほどございます。以上でございます。

次長

ただ今ご説明申し上げました (2) 当初予算計上分につきましては 7,637 万円ほどでございます。それから 6 月補正予算に計上された分は 1,566 万円、合わせまして 22 年度通し事業としまして 2 億 1,576 万円ほどで事業を進めておるところでございます。

次に 4 ページをご覧ください。22 年度主要ソフト事業についてご説明申し上げます。非常に幅広くソフト事業があり、まず始めに先駆的振興事業についてですけど特別展「森田繁画伯が描いた黒川能の世界」開催事業は、黒川能を描くことで画才を開花させたとされる現代絵画壇の巨匠故森田繁画伯のご遺族から鶴岡市に対しまして 15 号から 30 号の油彩 10 点、デッサン 11 点合わせて 21 点のご寄贈を受けたものでございます。描かれているものは黒川能と王 祭にかかわる人々を温かく描いた作品になっております。この夏分は 7 月 15 日の羽黒山花祭りから始まりまして、水焰の能、8 月 7 日の温海せせらぎの能、8 月 14 日の荘内大祭と 4 回黒川能の夏の演能がでございます。これに合わせまして相乗効果を高めるために 7 月 15 日から 8 月 26 日までの間、黒川能の里王 会館展示ホールにおいて特別展を開催する、このような内容で現在準備を進めております。以上でございます。

産業課長

同じく先駆的事業として取り組んでおります産業課関係でございますが、グリーン・ツーリズム都市農村交流による農産物販路拡大支援事業でございます。この事業につきましてはこれまで培ってきました交流を足がかりに販売拠点の確保ですとか、農産物の販路拡大を図る取り組みを支援するものであります。

教育課長

続きまして、教育課の関係 3 点ほどご説明申し上げます。まず先駆的振興事業でございますが、黒川能後継者育成事業 (小中高) ということで、ご承知のとおり 500 年以上の歴史ある黒川能が現在も綿々と受け継がれています。しかし近年の就労構造の変化や役者の高齢化、少子化が急速に進展しているということで、将来を危惧するような状況になっているようです。このような状況の中、東小学校で昭和 60 年度から地元黒川能の能役者から仕舞の指導を受けています。これは総合学習や学校教育の一環ということで行っておりますけれど、これをさらに中学校、高校と対象を拡大して将来の役者を育成するというものであります。加えて自主練習用の DVD の製作ということで 5 演目くらいを想定しておる事業であります。次の地域振興推進事業の第 3 回黒川能無形文化遺産保存伝承研究会事業と

いうことで、毎年黒川能に造詣が深い方を講師に迎え研究会を開催して、能を通じて人的交流を進めながら、地域の活性化を図って、さらには能座員の伝承に対する機運の醸成を図るというものです。最後に第4回の地域民俗芸能研究会で、当該地域には天狗舞獅子舞をはじめ、丸岡の桐箱、宝谷の八木節等の伝統芸能があるわけですが、やはり少子化、後継者不足といった色々な課題が残っております。それら課題を共有していきたいということで、毎年そういった団体の発表や意見交換をしながら今後の保存伝承につなげていきたいというものであります。以上です。

市民福祉課 難波 貢主幹

それでは引き続きまして市民福祉課からご説明申し上げます。いきいき健康クラブ、すこやかシルバー事業ですけれども、最初にいきいき健康クラブは、高齢者の健康づくり、交流や趣味活動、交流会、生きがい仲間づくりなどを楽しみながら健康づくりをするものです。平成21年度は17地区で513回実施され、参加人数が952名、延べで8,394名が参加しております。今年度も引き続き行うものです。次に、すこやかシルバー事業ですが、一般高齢者を対象に、個人の体力に合わせた運動の機会を提供し運動の習慣づけにより健康増進、介護予防を図るものです。会場は運動機器が備えられた庁舎後ろの高齢者活動センターで、会員の皆様からは体組成計や有酸素バイクに接続する万歩計を購入していただき、ただの運動の場を提供するだけでなく、運動で得られたデータをパソコンで分析して、運動効果が目に見えるようになっており、櫛引地域独自の事業となっております。櫛引地域外からの利用者も多くなっており、最近平均で年間約400人が利用しており、転倒防止や、血圧、血糖値、肥満等の改善効果が見られます。今年度も引き続き実施します。以上です。

産業課長

引き続き産業課関係でございます。豪雪被害果樹地復旧対策事業でございますけれども、昨年12月の豪雪によりまして破損した梨棚の撤去や、損壊した樹木の伐採作業等につきまして昨年度に引き続き行うもので、この4～5月で終了しております。なお、この緊急雇用創出事業というものにつきましては地域の雇用、失業情勢が厳しい中で、離職された失業者等の雇用機会を作り出すため、県が国の補助を受けて設けた基金を活用して雇用の受け皿を作り出す事業となっております。続く有害鳥獣対策被害等巡回調査につきましても同じく基金活用事業で、農産物への害獣であります猿の生育調査、被害確認、巡回、猿接近警戒システムの効果確認を行うものであります。次のふるさと雇用再生特別交付金事業、地域食材活用普及事業につきましては、先の事業と同様県が国の補助を受けて造成した基金、こちらは山形県ふるさと雇用再生特別基金を活用し産直あぐりに委託し、昨年に引き続き実施するものであります。次の黒川能野外能楽「水焰の能」開催事業についてですが、旧櫛引町誕生30周年記念の特別事業として、昭和59年に第1回を開催して、今年で第27回目を迎えるものであります。最後ですけれども、温泉活用健康増進、介護予防等推進事業委託これも産直あぐりに委託した事業と同様基金活用事業で、こちらはくしびきふるさと振興公社に委託し、記載の事業を行うものであります。以上であります。

次長

以上で主要事業調書の説明を終わります。

会長

ただいま、当局側から説明を受けたわけですが、皆さんからご意見ございませんか。自由にご発言ください。

田中 敦委員

櫛引民児協の田中です。今の説明に関してのことではないのですが、予算に関係のある事項でありますのでこの場で要望させていただきます。先日、櫛引地区民生児童委員協議会6月の定例会が開催されました。その席上ですけれども、委員から子宮頸がん予防ワクチンについてケース検討の課題として提案されました。それで定例会で検討の結果、もしできれば地域審議会へ櫛引地区民児会からの要望事項として提案したらどうかという話が出たことから、ここで要望させていただきたいと思います。**20代～30代**の女性に増加している子宮頸がんを予防する予防ワクチンがあるんだそうですけれども、その接種費用は5万円だそうです。その全額助成制度を鶴岡市においてぜひ早急をお願いしたいということがあります。子宮頸がんというのは国内で年間**15,000**人が発症して、約**3,500**人が死亡していると言われていたそうです。ただ、この予防ワクチンというのは去年の**10**月に承認されて、集団接種というのが国内では栃木県の大田原市が第**1**号ということで、次いで東京都、山梨県は全市町村が先月から接種を始めたということがあります。全国で助成制度があるのは4月現在で検討中も含め**42**市町村とまだ少ないですが、今後増加することが推測されます。今、助成制度としては全額助成とか**15,000**円を限度とするとか半額とか、市町村によって色んな方法があるそうです。山形県は現在大蔵村と村山市、そして最近最上町が全額助成を決めたと報道されているようです。新聞を見ますと山形県の市長会では県に対して国に公的支援を働きかけるよう要望したと報じられておりましたけど、どの市町村も財政に余裕があるわけではありませんが、鶴岡市では何とか工面をしていただいて、健康福祉都市鶴岡市として早期の予防のためにいち早く全額助成に踏み切るように早急に検討し、実現していただければありがたいなと思ひまして要望させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

はい、今のは、要望事項でございますが市としての考え方はいかがでしょうか。

企画部 小林 貢部長（以下企画部長）

この子宮頸がんのワクチンについて大変有効であるということ、市町村で取り入れているというのはお話のとおりで、この件につきましては鶴岡市の重要要望事業として年度の初めに整理をいたしまして国、県にワクチンの無料化を要望いたしております。ただ、市が単独で今すぐできますかどうかにつきましては、財政的にも非常に厳しい状況でありますけど、今日そういったお話があったということを担当に伝えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長

田中さん、よろしいですか。

田中 敦委員

はい。

会長

ほかにないでしょうか。

宅井 きく委員

宅井です。ただ今の説明ありがとうございます。今日初めての参加ですので、素朴な疑問ですが、ご勘弁いただきたいです。例えば黒川能の水焰の能などの開催事業ですが、入場券、前売券・当日券ということで入場料を取って事業を行っていますが、この入場料は全部市に入るのでしょうか、それとも黒川能の保存会等にいくのでしょうか。すみません。お願いします。

産業課長

入場料につきましては事業の財源として市の歳入になります。

宅井 きく委員

分かりました。

産業課長

補足です。市の方の歳入になりますけど、歳出の予算として出演をいただく保存会の方には出演の謝礼が出ます。

会長

はい、ほかに。

それでは次の報告に移りたいと思います。地域課題調査等の取り組みについて当局から報告をお願いします。

次長

はい、それでは（２）地域課題調査等の取り組みについて資料３、４につきましてご説明申し上げます。最初に資料３をご覧いただきたいと思います。**H22** 櫛引地域地域振興対策事業３つの柱ということで、当面的なことですが、すでに左側に地域振興ビジョンを定めておきまして、その中に歴史・文化の里整備、グリーン・ツーリズム推進 フルーツの里整備と大きなタイトルを掲げております。地域活性化推進事業この内容につきましては、ただ今平成**22**年度主要事業調書の中でソフト事業は各課から説明させていただきました。地域振興ビジョン調査研究費では、黒川能保存伝承研究会、地域民俗研究会と開催されています。それから先駆的振興事業では「森田茂画伯が描いた黒川能の世界」特別展、それと黒川能後継者育成事業を実施するというところであります。もう１つグリーン・ツーリズム農産物等販路拡大支援事業につきましては、この事業をがんばっております**JA**の青年部に対する助成を行うといったことを進めているところであります。

中程の地域課題検討であります。これは後程資料４で各地域庁舎のテーマについて説明しますが、櫛引地域で掲げておりますのは、１つ地域課題調査としては未婚化実態調査検討事業を実施するというものです。それからコミュニティ再生では、住民自治組織課題調査検討事業の実施をする。３つめ、農業農村調査では農業と観光を活かした地域産業振興事業を進めると、これら大きく３つの事業調査、検討課題を掲げて進めるということでございます。

一番右手が、本日開催しております地域審議会で、これにおきましても先程副市長から

挨拶ありましたとおり、ただ年1回の開催だけで事業の報告をするということだけでなく、テーマを設定して色々ご意見をいただいて、地域の活性化を進めていこうということから3回くらいの開催をして、主要なテーマについて意見を伺い、集約して予算等に反映させていきたい、このように進めていこうと考えております。

次の2枚目でございますが、地域振興ビジョンの具現化のためのフローということで、ただ今1ページ目に取り組みようとしております事業のほかに、実際各集落におきまして事業を進めておるところでございます。おらが自慢事業におきましては鶴岡市単独補助事業でありますけど、代地域伝統文化保存事業、それから宝谷八木節保存伝承事業、この事業を進めているところであります。中ほどのいきいきまちづくり事業におきましてはつるおか絹物語発信事業として、綴織関係、虚籟庵が事業主体ということで事業を実施しておりますし、イバラトミヨの保護活用によるまちづくりということで、板井川イバラトミヨを守る会で事業を実施しています。地域コミュニティの再生事業、これは丸岡地区で取り組んでおりますし、今年度から倭楽の保存伝承事業で倭楽の後継者育成ということでありますが鶴岡倭楽伝承保存会で事業を進めております。下段の庄内伝承の里事業、これは山形県の補助事業でございますが、松根塾の事業展開に対する助成、それから蠟燭能の開催にかかる支援ということで、それぞれ今年度が3年目で最終年度を迎えますけども、このことも進めておきまして、それぞれ地域づくりに大きく貢献していることと私達は認識しております。このようなことが市民の取り組みになるということでありますし、1ページ目で申し上げました地域活性化推進事業、地域課題調査検討、地域審議会これらの行政が関わった取り組みと併せまして市民と行政共同のまちづくりを進めていきたいと考えております。この中では、庁舎の中にも地域戦略会議という組織がございますし、鶴岡市といたしましては支所長等が構成員となっております地域振興対策会議というところも組織されておきまして、地域振興ビジョンのさらなる具現化に向かっているということでございます。以上資料3の説明です。

次に資料4でございますけど、それでは具体的にどのような調査検討事業を進めようとしているのかということでございますが、資料4の最初のページは合併しました5町村で取り組むいわゆるテーマでございます。地域活性化推進事業、地域課題調査、コミュニティ調査、農業農村調査、それぞれの庁舎におきましてテーマを決めまして取り組もうというものであります。櫛引地域におきましては、地域課題調査、地域の課題は何かということで、色々内部で協議いたしましたし、コミュニティ実態調査におきまして各地域にお邪魔をいたしまして課題を挙げていただいた中から、やはり未婚化の声がありました。少子化についても未婚化が原因にありますし、それらを踏まえ未婚化実態調査に取り組もうということになりました。それからコミュニティ関係では住民自治組織課題調査・検討事業を進め、農業農村調査では農業と観光を活かした地域産業振興事業に取り組むということでございます。具体的な内容は中ほどをお開きください。まず、未婚化実態調査・検討事業についてでありますけど、事業の概要は、まず目的から申し上げますと、少子化に拍車をかけている大きな要因の1つとして、晩婚化・未婚化が挙げられて、結婚活動に対する意識の醸成、これが非常に重要でありますけど、実際若い市民がどのような意識を持っている

のか、未婚・既婚を問わずこれらの意向の調査をしようと、そこから始めようと考えております。それらの状況を踏まえまして婚活支援対策検討会を開催いたしまして分析をし、講演会の開催ですとか、先進事例の視察をとおしてノウハウを学ぶことで適切なアドバイスができるような気運の醸成をまず初年度は図っていきたいと考えております。次の概要であります。婚活支援対策検討会は年3回開催し、委員は**28**名を予定しております。委員の中には区長さん**21**名に加え女性の方**7**名ということで考えております。実態調査の実施についてはここには全**21**地区**30**から**45**歳の未婚者とありますけれども、条件を特定して調査をするのは容易でないことから、ご訂正いただきたいですが、今考えているのが**20**代から**40**代が櫛引地域では約**2,300**名おるようですが、この年齢に該当される方全員に調査にご協力いただくと考えております。これは未婚、既婚問わず、あなたは未婚だから調査に協力してくださいということではなく、その年齢に該当する方の意識を調べていくということです。次に婚活支援講演会の開催、先進事例視察研修、婚活イベントで、具体的なイベントにつきましては**23**年度に向かっての検討になると考えております。

次の住民自治組織課題調査検討事業でありますけれども、コミュニティの実態調査は、**21**地区のうち**13**地区は終了しており、今年度**8**地区調査中でございます。実は今日の夜馬渡地区にお邪魔をいたしまして、全**21**地区の調査を終えることとなります。調査後にそれぞれの地域が抱えております問題をまとめて、検討会を開催して地区の共通した課題を議論します。また、これから地域を担う若手のリーダーを育成していくセミナーの開催、それと先進事例視察研修、以上を予定しております。このようなことを各地域庁舎独自の考え方で進めているわけですが、特に未婚化実態調査については櫛引庁舎だけが取り組む事業でありますので非常に関心も寄せられております。私ども事務局といたしましても区長会などからのご協力をいただきながら実のある調査にしていきたいと考えております。宜しく申し上げます。

産業課長

引き続き、産業課関係ですけれども、4ページ目をご覧ください。「地域プロジェクト推進事業」でございます。これは平成**21**年度に実施いたしました農業農村課題調査の結果を踏まえ、地域庁舎を主体として実施する事業でございます。各地域の特色ある農業の振興と掘り起こしを行いまして、地域農業の振興、さらに活性化に繋げるもので、櫛引地域といたしましては農業と観光を活かした地域産業振興をテーマにしております。事業内容であります。1つは旅行会社との連携による観光果樹園とグリーン・ツーリズム、観光施設を組み合わせたツアー企画の実施でございます。もう1つは、さくらんぼ狩りやぶどう狩り等に毎年多くの観光客が訪れておりますが、この果樹園までの案内や問合せへの対応が今まで十分に機能していなかったことが課題となっております。そこで、受入案内システムの確立でありますとか、情報発信ということで観光案内指導員の配置、マスコミ等を活用した積極的なPRを実施したいと思っております。ツアー企画といたしましては、日本一のくらげ水族館と映画の街鶴岡でぶどう狩りを楽しむ旅といった企画商品を組み込んでいただいております。引き続き地域の農業観光資源、あるいは施設を組み入れた企画の提案を旅行会社にしてまいりたいと考えております。また、案内機能でありますけど、関

係団体のご理解をいただきまして、プロジェクトの推進組織を立ち上げまして、産直めぐり内にコーナーを設けさせていただきました。既に案内業務もスタートしております。新聞等に掲載されましたのでご承知かとは思いますが、今年度の問題点を整理、検討しながら効果的な事業執行などを引き続き探ってまいりたいと考えているところでございます。

次長

説明は以上でございます。

会長

それでは報告の（２）について意見をお持ちの方は発言願います。

阿部 元喜委員

鶴岡まちづくり塾塾生の阿部と申します。現在大学生でして知識があまりなく申し訳ないのですが、資料３、「櫛引地域振興対策事業３つの柱」２枚目のいきいきまちづくり事業のなかにある丸岡地区が行っている地域コミュニティ再生事業ですけれども、既に行っている事業でしたらどういったことを行っているのか具体的に教えていただきたいのですが。宜しく願います。

次長

はい、丸岡地区で行っております地域コミュニティ再生事業の概要につきましてお答えします。丸岡地区の当面する地域課題として、安全で安心して暮らせる地域をどのように構築していくか、人と人との関わりが希薄化する中で絆をどう深めていくか、歴史と文化を背景とした地域づくりを実現するにはどんな手法があるか、健康で明るい助け合いの地域づくりをどう推進するか、歴史と伝統を継続しつつ落ち着きある美しいたたずまいをどのように維持、継承するか。このように大きな５つの課題を地域として取り上げて、その実態と対応策を検討しておるところです。具体的には外部から学識者と講師を招聘して、地区内で研修会を開催するとか伝統文化を活かした地域づくりを行っている先進地を地域住民で視察などを通じて課題解決のために、皆で考えていこうというものです。

阿部 元喜委員

分かりました。

会長

ほかにはございませんか。自由に発言してください。成田さん何かありませんか。

成田 勇委員

松根塾の成田でございますが、未婚化実態調査検討事業というのは地域にとっても大変意味のある事業だと思っておりますし、うちの松根地区におきましても結婚したくてもできない若者や引きこもりの若者がおり、時代を担う若者の中にそういった課題を抱えた者がおります。そういった時にこれは地域の自治活動においても非常にベースになる大きな問題となっていると私も意識しております。こういう事業に櫛引地域が率先して取り組んでいるということの意味は大変大きいと思っております。区長会の会長を始め、区長会でも積極的に関わっていくことになるのではないかと思っております。大いに進めたいです。

畑山 久恵委員

今から6、7年前、金内前会長の時代にこのような話が出ました。「今誰かがやらねばだめだんでねがの」と婦人会で話しました。けれども立ち上がることができないで終わった経緯があります。今、この話を聞きまして、いよいよここまで来て良かったなど、しみじみ感じております。ぜひ成功させていただきたいなとしみじみ感じております。

会長

ほかにいかがでしょうか。特になければここで**10**分間休憩を取りたいと思います。

次長

ありがとうございました。山本副市長にはこの後に他の予定が入っておりますのでここで退席させていただきます。

会長

それでは3時**10**分まで休憩といたします。

—休憩—

6、協議

会長

では、再開します。6の協議に入りたいと思います。地域課題調査等の取り組みについてですが当局で考えている原案を説明いただき、今後課題をどう進めるべきか皆さんからご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

それでは始めに当局から原案の説明をお願いします。

次長

はい、6 協議の「地域審議会協議テーマの設定と今後の進め方について」ですが、この次第についている3枚目を読み上げて、どういった考えかご説明いたします。地域庁舎では積極的に地域の声を汲み上げ市民力、地域力、行政力の3つの力を充分に発揮して地域の課題解決を図るための調査や政策を検討することとしています。これらの動きと連動しながら地域審議会において地域の課題を踏まえた協議テーマを設定し地域組織の代表の方や地域の住民の方より充分に議論していただき、市に対してご提言を頂くこととしています。次回以降の地域審議会において設定したテーマについて協議していただくこととしております。

事務局といたしましては地域調査課題のメインテーマに挙げている未婚化実態調査検討事業と同じ内容になるわけですが、テーマといたしましては「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」ということで、これを年末まで協議するテーマにさせていただければと考えております。

次に事務局案のテーマ設定の事由等についてご説明いたしますけど、櫛引地域で実施いたしました**20**年度及び**21**年度コミュニティ実態調査、また今年度実施いたしております実態調査におきまして、結婚適齢期の男女の未婚、晩婚化が深刻化している状況が集落共通の課題として浮き彫りになっております。また、山形県においても人口減少抑制対策強化の一環で、本年1月にやまがた婚活応援団プラスを設立し、県全体で若者が結婚を前向

きに捉えられるよう意識啓発を進めるとともに、結婚について地域社会全体で支援する気運醸成を図ることとしており、当地域の実態把握と分析を行いつつ今後の施策展開に役立てたいと考えております。協議テーマに関する現状と課題についてですが、ここに記載のとおりであります。ただ、結婚については個々人の意思が最大限尊重されることであり、また、プライバシーに関わる問題でもあることから、行政対応としては慎重に行っていく必要があると考えております。特記事項に関しましては、婚活支援対策検討委員会は別途設置、10月23日には婚活支援講演会を全市対象に開催する予定にしております。このテーマの今後の進め方でございますが、第2回櫛引地域審議会の開催は10月上旬を予定しており、内容はコミュニティ実態調査、今夜を持ちまして全地域完了いたしますのでそれらの状況をまとめた上で中間報告をしたいと考えております。それから婚活関連アンケート結果も一次集計として一次分析報告をしたいと思っております。その後、協議テーマに関する議論を委員の皆様からしていただきたいと考えております。第3回目の地域審議会におきましては、11月開催予定にしておりますけど、協議テーマに係る議論及び市への提言をまとめていただくこのような進め方でいかがかと事務局の案として申し上げます。以上です。

会長

ここの取り組みについて内部協議の結果、事務局案として説明をいただいたわけですが、これについて皆さんの意見をまとめながらも、こういうものも協議課題にしたら、という意見があれば参考にしたいと思っております。婚活1本にしなればいけないわけではありませんからご自由にご発言いただき、最終的にまとめたいと思っております。先程、結婚問題については成田委員からもご発言ありましたが、合併当初、人口は14万3,000人ほどいたわけですが、平成27年度になりますと約1万人が減るような予想であります。1万人といえますと、櫛引町がなくなるくらいの規模でございます。少子高齢化は全て人口減少に結びつくわけで、重要な課題だと思っております。しかし櫛引地内だけで解決できる問題ではありません。難題ではありますけど、櫛引ではどういった手助けができるだろうかということを考える必要もあると思っておりますので、ご自由に発言いただきますよう宜しくお願いします。

小林 良市委員

結婚支援のあり方、というテーマについては賛成です。その点の問題意識と言いますか、課題を把握するために、ここで出来ることといえば、数字的な実態がどうなのか、例えば櫛引地域が他の地域と比較すると未婚率が非常に高い要因はこんなところにある、というような分析を基に、委員の意見を集約して課題を解決したいという流れだと思います。そこで、冒頭申し上げました数字的な現状はどのように押さえているのでしょうか。

総務課地域振興班 菅原 正一主査（以下菅原主査）

小林委員から数字的な現状ということでご質問がございましたけど、鶴岡市にあって、櫛引地域としては平均よりは低い未婚状況でございます。温海地域や、朝日地域は未婚率が高いという状況です。櫛引地域が特に高いという状況にあって、これをなんとかしなければならぬという認識ではございません。山形県全体でも、昨今の新聞記事に出ておりましたとおり、急速に未婚化、晩婚化が進行しているという状況で、これはは全国的にも言えることでありまして、櫛引地域が特にということではございません。集落の実態調

査の中で、桂荒俣地区では未婚者があまりいないという聞き取りでした。ですから地域の雰囲気、あるいは周りの若者の考え方、そういった違いで未婚化状況にも影響を与えているという部分があるのではないかということ予測はできますが、小林議員のご質問にありましたとおり、数値の部分で高いから開催しようということではなくて、櫛引地域は少しでも未婚化の抑制を先駆けて実施し、地域経営をより安定的にしていくために先んじて取り組もうというものであります。

小林 良市委員

具体的な数字は分かりませんか？高いとか低いとかいうのは何に比べてなのか。例えば平均はどのくらいで櫛引地域はどのくらいなのか具体的な数値が分かれば、非常に説得力があると思います。

菅原主査

直近のデータは無いのですが、少し前のデータになりますけど鶴岡市内の旧地域で分析した資料がありますので、後程お示ししたいと思います。

会長

それではほかに。芳賀委員。

芳賀 俊之委員

私の肩書きは支部長ですが、公共的団体枠ではなく公募枠であることを冒頭申し上げておきたいと思います。私が一番気になるものの中に、先程合併して5年という話がありました。その間様々な協定もあったわけですけど、我々住民から見ますと、突然行政水準の統一、公共料金を統一といったことが伝わってくるわけです。もちろん議員の皆様の領域に踏み込む気は毛頭ありませんが、合併協議で示されたものは今現在どこまで進んでいるのかということを知らせてほしいと思いますし、住民のみなさんが一番心配しているのが、これから合併して様々なことを統一していく際に、どちらに向かって進んでいるのかということだと私は思います。ぜひともそうしたことも課題として設定していただければと思います。

それと今提案しています未婚化ですが、言葉を変えれば少子化と高齢化ということになりますが、この問題は集落自治に大きな影を落としています。これは、昨日の農協の座談会でも話がありましたが、今60代の人が農業を辞めたらその先どうなるか、と聞いたとき誰も答えを出せないという状況にありました。未婚の問題も大変重要ですけど高齢化の進展によって、集落の自治や産業の構造がどうなるかというようなことについても目を向けていただきたいということを申し上げておきたいと思います。

会長

今の話題に関連して何かございましたら。当局からどうぞ。

企画部長

一点目の市町村合併の平準化という話もありましたが、それぞれ調整を進めてきたわけですけど全体で2,554項目の合併協定の調整項目がありました。21年度末で2,530項目の調整が終わり、残り24項目ということでもあります。この24項目のうち、都市計画税、国民健康保険税に関しては5年間不均一課税ということで、従来のそれぞれの税率で課税さ

れていたわけです。これは5年間で法律的に1本に下さいという国通になっておりますので、**23**年度から統一された課税になります。この都市計画税に関しましては基本的な税率は**0.3%**でお願いをしたいという考え方であります。課税区域に関しましては原則旧鶴岡と藤島、温海地域の市街化区域あるいは用途区域ということでお願いしたいということで、現在内容を詰めさせていただいているところです。国保税に関しましては、今年度中国保運営協議会で議論していただくということで進めております。そのほか**19**項目ございますが、主に自治組織関係の項目であり、5年間という区切りはしてございません。5年を越えての調整ということになりますけど、それぞれ伝統的に一番いい方法でやってきたという経緯がございますし、いろんな課題があろうかと思っております。合併調整項目で色々お話ありました少子高齢化や過疎化の進行等諸々の調整を、そういった変化も踏まえての地域コミュニティ調査、各地域でやっております全市的な調査、そういったものを受けまして、多少時間はかかると思えますけれども、皆さんからご議論いただきながら方向性を持っていきたいと考えております。今の状況はこういったものをご理解いただきたいと思えます。

松浦 安雄委員

一言私から思ったことを申し上げたいと思えます。婚活がテーマということで、とてもいいテーマだなと思えます。ただ、その中で、ここに集まっている人たちが婚活のことを論じて、適齢期の人たちがどうなのかということが大事だと思います。この審議会でじちゃんばばちゃんがいっぱい集まって、婚活のことを一生懸命論じ合っても、適齢期の男女にどのように響くか、これが最も大事なことです。**10**、**11**月の審議会で婚活調査の結果が示されるわけでございますけど、それを適齢期の方々にどのように深刻な気持ちで受け止めてもらえるか、これが審議会でもっと大事なことだと思います。審議会ですら論じても適齢の人たちに届かなかつたら絵に描いた餅と同じです。そういったことを分かってもらえる方になんらかの形で出席を求め、コミュニケーションを持ってもらうことが解決に繋がることと思えます。特に**500**年の伝統がある黒川能でございますけど、果たして黒川能の伝承が出来るだろうか、そのことを私は危惧しています。適齢期の孫にその話をしても一向にどこ吹く風ですし、この審議会でも婚活が大きなテーマになったということ、テレビもあるわけですし、色んなメディアを通して、若い方々に届けるような審議会にすることが解決に繋がります。一步でも前進するような会にしたいと思えます。

会長

はい、先程芳賀議員から地域コミュニティについて自治組織のあり方について話がありましたが、地域共同体が成り立たなくなった地域もこれから出るだろうと想定できるわけです。婚活の問題も大いに関連するものだと思います。課題として、今松浦委員から適齢期当事者にどう意見を届けるかというお話があったようですが、問題は前段として調査をし、今櫛引の実態はどうなっているか把握をするということですが、その辺ご自由にご発言ください。

成田 勇委員

成田ですが、今松浦委員からありました話は全くそのとおりで、私もどう届くことにな

るのかというのが一番ポイントだと思います。そうなりますと、アンケートを取る段階から分析までの過程で、より専門性のあるスタッフが必要でないかと思えます。今時の若者を捉える専門性を持ったブレーンがアンケート内容を設定して、それに基づいて課題を見つけ、課題から結婚を希望している若者にどう届けるか、こんな過程をどのように考えていくかが出発点で大変重要ではないかと私は思っております。その辺は当局としてはどのような進め方をしたいと考えているのか伺いたいと思えます。

次長

はい、まず松浦委員、成田委員からご意見いただきましてありがとうございます。先程申し上げましたとおり、地域コミュニティ実態調査の中で出てきた共通課題項目でございますが、少子高齢化進行への対策、若者の結婚対策、伝統文化の継承、婦人組織の活性化、若者の定住促進対策、防災体制の強化、これらは地域経営の根幹がしっかりすれば立て直すことができるものだと思います。各地域に出向いて調査してみますとあまり問題が無い地域もあれば、大変深刻な地域もございます。その原因の分析も当然必要だと思いますけど、今より専門性の高いブレーンが必要ではないかということで、それをどう分析し解決するかが課題というご指摘はそのとおりですが、限られた予算の中で進めていくものでございますので、調査の内容につきましても、先進事例を参考にした内容を考えておりますので、分析する中で色々傾向も出てくるだろうと思えます。やはりその結果が未婚者にどう届くかが大事で、その未婚者のいる家族にどのように深刻に届けるか、このことも大事だと思います。幸い櫛引地域はケーブルテレビがある地域ですのでそれを活用しつつ、10月23日に開催されるシンポジウムもより多くの皆さんから聴講していただいて、課題を共有して対策を考えていく、そこからのスタートではないかと思えます。次年度に向けましては出会いの機会を作ることが大事であります。出会いの機会はどう作るかですが、果樹等の農業生産の現場に参加していただく、あまり経費をかけずに、交通費持ちで櫛引に来ていただく、など皆さんから色々アイデアを出していただきながら進めていければと思っています。制度設計としては甘いのご指摘なるかもしれませんが、アンケート結果を基に、そこから先を見ていきたいと考えているところです。宜しく申し上げます。

会長

では先程の未婚率の資料が来たようです。

菅原主査

今、資料を配らせていただきました。未婚率の上昇、親世代と比較してということで、横軸に2005年、2000年、1970年との対比で、5歳刻みで男女に分かれておりますけど、これは全国のものでございます。鶴岡地域全体としてみますと、未婚率の上昇の傾向は、だいたい全国と同じような状況にあると思えます。2000年の30～34歳男性の未婚率は42.9%でありましたが、2005年では47.1%に上がっているということです。ご注目いただきたいのは2000年に30～34歳だった人は、2005年になると35～39歳にスライドするわけですけども、5年経つとどのくらいの成婚されるかということ12.9%の方が結婚されるという見方をすることが出来ます。では2000年に35～39歳だった男性が2005年にどのくらい成婚されるかということ、わずか3.7%しか結婚されていないという状況にあります。こ

これは女性に対しても言えることをごさいますて、**35～39**歳女性で未婚の方は、**2000**年の時**13.8%**でして、5年経っても**1.7%**しか結婚されていないという状況になりまして、今度**2010**年の調査が出ますとさらに厳しい数字になるかと思ひます。年々数値の上でも未婚化が進行している状況をごさいますて、国も少子化対策の一環の中に、婚活を初めて予算化しているという状況にもあります。以上です。

小林 良市委員

離婚した人は含まれていますか。

菅原主査

これは入っていないと思ひます。離婚した人も未婚者という数値になつてと思ひます。

会長

離婚した人も未婚者に入っているわけですね。これは全国のデータですか。

菅原主査

全国の未婚率のデータになりますが、1回結婚し離婚した人はどうなるかですけど、私が聞いた話では結婚しているか、していないかで見ていると聞いております。

小林 良市委員

ということは離婚も入る？

菅原主査

離婚も未婚に入ることになりますが、違つていた場合は、後で訂正させていただきます。

小林 良市委員

確か、実態調査では結婚した人の三分の一程度が離婚するようです。その辺も分析する時踏まえてほしいです。

菅原主査

はい、分かりました。

会長

ほかにご意見をお持ちの方は。はい、金内さん。

金内 勝雄委員

合併直前に櫛引より未婚率が高く危機感を持った温海町が町と住民あげて婚活の動きがあつたようです。どんな活動をして、どんな成果があつたのか明かしてほしいです。

地域活性化推進室 粕谷 一郎係長（以下粕谷係長）

地域活性化推進室の粕谷と申します。私は温海庁舎出身ですので概要をお答えさせていただきます。直接の担当ではなかつたので、詳しいことは分かりませんが、当時結婚対策で出会いの場を創出する担当課を設置しまして、担当者2名で佐藤正明町長音頭の下、取り組んだという経過があります。主には、結婚登録制度と、もう1つの柱として出会いの場を創出するというので、今盛んに商工会議所やJAさんですとか見合いパーティーをやっておりますが、こういったことを別立てでやりました。登録制度の成果としては実はさほどあがつておらず、なかなか難しい状況にありましたが、出会いの場を創出するパーティーでは毎年1～2人くらい結婚しているという状況にごさいます。その時に男性中心

で作ったグループがありまして、行政の手を離れた後も自分達で研修会を開いたり、革細工製作の体験会を開催したり積極的に活動されたようです。その中でも1～2人結びついたようです。やはり場を設定したということが大きかったのかなと思います。具体的な数字は、今手元に資料が無く、誤った数値をお答えしてもいけませんので、いずれかの機会にご提示したいと思います。以上です。

金内 勝雄委員

はい、ありがとうございます。一人でも二人でも成果があつたということですね。合併後も続けていますか。

粕谷係長

今は完全に行政の手を離れています。当然結婚した方は抜けますが、最初に登録して継続している方が、自分達だけで集まってインターネットを活用してイベントがあれば、二次元バーコードを貼り付けて広告する取り組みを続けております。あくまで自主的な活動です。

金内 勝雄委員

では合併後には専門職の二人はいなくなったのですね。

粕谷係長

合併後と言いますか、ある程度組織の立ち上げが終わって、自主的に移行してからと聞いております。

上野 進委員

今、温海さんの実態をお聞きしましたが、やはり何年かは行政指導で活動を続けていくべきだと思います。例えば婚活パーティーですとか合コンとか、それをぜひ櫛引でもやっていただきたいと思います。そういうことをできるだけやっていただいて、離婚して子供を抱えている方も含めその年代全ての人たちを対象として、パーティーを年に何回か開催して出会いの場をできるだけ多くしてやるということが大事だと思います。それともう1点、櫛引の地域は家に何世代か同居する家が多く、例えば嫁さんや婿さんをもらうと年寄りと一緒に同居しなければならない難しい状態にあるという感じもします。また、戸沢村が20年ほど前に韓国のOLさんと呼んだことがあったようです。今、国内では一人っ子や多くて二人という家族構成で、どちらの家も長男長女で嫁にやれない、婿に行けないといった物理的な問題があるとすれば、戸沢村の例のように外国の方を呼ぶなどの支援も必要なのかなという感じもしますので、色々な面を検討していただければと思います。私も自治公民館を担当させてもらって長いものですから、地区の役員の人たちと一生懸命色々な話をするのですが、なかなか妙案が出てきません。今回役所の方でこういうテーマを取り上げてくれたことはありがたいですし、がんばっていただきたいし、我々もがんばりますので、こういった活動を続けていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

会長

ほかにございませんでしょうか。阿部さん、なにかございませんか。

阿部 元喜委員

私は今 **21** 歳で、結婚ということは全く考えておらず、少し上の世代がどう考えているかは分からないですけど、結婚に対する考え方の違いが出てきていまして、結婚をしてもしなくてもいいという若者が増えてきているのではないかと思います。そう考えると支援していくのは難しいと思います。

宅井 きく委員

仕事でよくお嫁さんを紹介してくださいと頼まれますが、まず、ネックになるのが地域性です。櫛引で農家というと鶴岡の旧市内の親御さんは農家には嫁にやりたくないという人が多く、地域的なハンディキャップがあり、若者のニーズを把握しなければいけないと思います。講演会もとてもいいのですが、地域の魅力を若者にPRして、まず地域を見直し若者にここで結婚して子供を生みたいと思うようなインパクトが欲しいと思っています。若者が都会に行ってしまうのは、結婚しようと思っても、地域の産業、働く所が少ないというのが理由で、結婚しようと思っても若者が少なくは相手に巡り合えません。色んな課題がありこの企画はとてもいいと思うのですが、私としてはまず審議会に女性が少ないと思います。そして、地域の課題を潰してから婚活を行政と地域で取り組み、色々な機会で協議していくなかで意見を出していきたいと思います。地域的なことでは、私は社会教育委員ですが、部落費が高い、水道料が高いとかそういう問題も女性にとっては櫛引に嫁に来たくないと思う1つの要素だと思います。テーマとしては正直ちょっと違うかなと思うこともありますが、地域活性としてはよろしいのではないのでしょうか。

会長

おおかた皆さんは婚活の問題について調査し、その方向性を審査していこうということについては賛同いただけるということでしょうか。よろしいですか。

はい、では先程阿部さんからお話ありましたが、結婚について考えない **30** 代の方もいますし、そういうことで後継者が育たない、地域の崩壊に繋がる、だとするとさかのぼって教育に原因があるともいえますが、現実の問題としてどう深刻に受け止めてもらうかという状態です。では婚活をテーマとして決めて、次に調査の方法についてぜひこういうことも入れてほしいといった意見やご注文がありましたらどうぞ。

佐久間 泰子委員

「結婚したら櫛引に住みますか」「櫛引の魅力は」といった質問を入れてもらえれば、作業の方でも活用できると思います。

会長

ほかに。はい、金内委員どうぞ。

金内 勝雄委員

農業を継いで地域活動でも中心の孝行息子なのに、**40** 歳にもなって結婚できない、これが一番課題だと思います。このことにしっかり取り組まないと地域づくりの成果はあがらない。その辺の未婚者の内容も調査してください。

会長

ほかにないでしょうか。ぜひこういう調査を入れてほしいなど要望ありませんか。

畑山 久恵委員

この問題は、アンケートを取って課題を集めていくら未婚者がいる、そんな簡単なものではないと思います。私もお世話して何組か結婚した人もいます。いい事を並べるより、まず行政で取り組んで前に進むことが先決だと思います。1年も2年もかけるのではなく、まず早く進めていただきたいと思います。

渡会 昇委員

色々な所で様々な政策を行っていると思います。先程の話の中で離婚が三分の一だという考え方ですと、また新たな問題が出てくると思います。そう考えますと、全国の中で行っている例を参考にして、次回の審議会でお話いただければなと思います。今日こういう話が出たわけですけど、確かに未婚化は全国的な問題でどこも悩んでいると思います。しかも離婚が三分の一という話がありましたので、また状況が変わってくると思うのです。そのことも調査していただいて、次回の会議で報告していただければと思います。以上です。

小林 良市委員

アンケートの項目の中に、今回既婚、未婚関わらず該当世代にアンケート調査するというものでありましたので、そこで既婚者になぜ結婚したのかをぜひ聞いてもらいたいです。相手が良かったからということになれば、個人の資質を高めることになるでしょうし、農家の親孝行でいい人が結婚できない人でも、同じような条件で結婚している人がいるわけですからそういった人たちの結婚した動機、決め手を聞いて、これからの婚活の参考にできればいいと思います。せつかく全戸に調査をするわけですからぜひ検討してください。

五十嵐 繁委員

今まで色々なご意見が出まして、それぞれなるほどなと思いましたが、日本の経済も影響していると思います。ある若者の話ですと「結婚したってままかせでいいね、いつクビなっがわがね。いっそ気楽に一人のほうがいい」こういう意見もあります。また、農業の後継者がいないということで農家も悩んでおりますが、農業しても生活していけない、兼業でなければ苦しい、それが今の実態でございます。すると、経済、国の責任もあると思います。あら捜しばかりやっている今の政治では、なかなか若者が盛り上がってこないということも考える時期だと思います。その辺も含めながら、皆で若者が安心して結婚できるような体制を考えるべきでないかと思います。以上です。

会長

澤川さんいかがでしょうか。

澤川 宏一委員

審議会のテーマとしてはおおいに結構だと思います。別途設置にするということで、婚活支援対策検討委員会を設置するわけですけど、その中でもっと踏み込んだ検討したいと思います。それと同時に先程金内先生から温海の件について質問ありましたが、ネットワークというのは大事だと思います。単に櫛引、鶴岡だけでなく、婚活支援講演会というのがあるわけですけど、まずネットワークを作り、そこから色々な情報を得て検討する、既に当局で考えているかもしれませんがこのような案を提案します。

畑山 久恵委員

何年前か忘れましたが、エルサンでもこのような取り組みをしておりました。内容や経過を聞いてみてはどうでしょうか。

渡会 昇委員

それは商工会議所の青年部で行いました。

畑山 久恵委員

そういうイベントでも参考になれば取り組んでみてもいいのではと感じております。

会長

色々意見も出ましたし、澤川さんから大変重要な話が出ましたが、櫛引地域だけで解決できる問題ではありませんので、同じような各地域とのネットワークもぜひ参考にしながら考えていただきたいと思います。これから調査内容の意見を参考にしながら詰めていただきたいと思いますし、区長会でも話題になり、地域の課題としてやるべきだと意見が出ていました。しかしアンケートを取る場合に、個人情報扱うわけですから、配るのは区長配布で配っても回収は郵送したほうがいいのではという意見がありました。その辺は当局ではどのようにお考えでしょうか。

次長

色々なご意見、アドバイスありがとうございました。調査方法につきましては、今年国勢調査があるわけですが、その方法は調査員が調査書を各世帯に配り、記入して封をした調査書を回収、または郵送していただいております。今回婚活の調査につきまして、今考えている概要を申し上げますと、**20~40**代の男女をリストアップして世帯ごとに調査書を区長さんから配ってもらいまして、返信用の封筒も同封しますので、封をした封筒を、できれば区長さんから回収していただきたいと思います。そんな形でお願いしたいと事務局では考えていますし、先ほど区長会会長さんという立場で意見もありましたが、今度区長会情報交換研修会でご意見を聞きながら決めたいと思います。まず、今お願いした形でご協力いただければ大変ありがたいと思います。

会長

確かに郵送だと回収率が悪くなりますし、区長会としても検討します。ほかにありませんか。

芳賀 俊之委員

今澤川さんの話で気付いたのですが、資料3の3つの柱を見ているんですけど、未婚化の問題でも検討会があつて、コミュニティの関係でも地域課題検討会があつて、その枠外に地域審議会があつてということで、我々の任務というのは何なのか。冒頭から未婚の問題は地域審議会での流れが全く分からなくなりましたが、どのような流れなのでしょう。検討会議で調査をして色々なことをするのであればそれはそちらの話で、地域審議会としては未婚も地域の問題ですが、それに限らずほかに様々な問題があるのではと私は思って冒頭から発言しているのですが、その辺の整理をしていただきたいと思います。

会長

地域審議会のあり方についてですが、今年で終わるわけでもありませんし、今年の進め方としてどういうことを櫛引地域のテーマとしてあるべきか、その話を進めてきたわけで

す。その中で、長期的に婚活の問題が全ての事業に影響があるという認識で皆さんからご意見をいただいておりますが、それだけでなくぜひ審議会として検討課題にするべきだという議題があれば、具体的なお意見いただければと思います。

渡会 昇委員

先程芳賀さんの意見で農協の懇談会で、60歳以上の人が農家を辞めた場合、やる人がいなくなるという話を聞いたわけですけど、これは非常に深刻な話だと思います。婚活も重要だと思いますが、農業の問題をこれからどうするかというのもこれからの課題だと思います。農協の懇談会でも答えが出なかったのですが、農業をしっかり出来る人がいれば、婚活の課題とも関連づけて解決できるのではと今考えたものですから発言させていただきました。

次長

審議会2回目以降のテーマにつきましてでありますけど、先程資料でご説明しましたとおり、地域審議会の協議テーマとしましては提案した地域社会と結婚支援のあり方をメインテーマとしたいと考えております。その中で農業後継者の問題だとか全て未婚化と関連があることだと思います。皆様から大いに意見を頂くということは大切だと思いますし、今ほかの協議テーマにかかる議論をして広く関連した意見を発言いただき、一つにしぼって議論しなければならぬわけではありませぬので、2回目以降も広くご意見を頂ければありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。

会長

ほかにご意見ありませんか。伊藤さん、なにか消防のことではありませんか。

伊藤 信委員

私も今回初めて審議会に参加させていただきました。色々意見が出ました。今の婚活の問題にしる、農業の問題にしる後継者がなぜ家を継げないのかそういう話もありますけど、それはやはり次長が話したとおり、広く議論しなければならぬことだと思います。しかし先程から聞いていまして、まずこの未婚者は結婚する気があるのかと、一番はそこだと思います。阿部委員が言っておりましたとおり、若い人たちは結婚する気が無いような感じでございます、ということでありました。私も消防の方で新入団員や若い団員と話しています。「彼女や好きな人いっだが」と話しかけますけど、まずいますと答える人はいません。いるかもしれませんが、人前で言うのは恥ずかしいという今流行の草食系男子であると思います。一昔前は積極的な男子が多い時代でした。今は昔より出会える場所はたくさんあり、金内先生が聞いていた温海の企画や、渡会さんが話していた商工会がやった企画、そういう場を作ってやるわけですけど、果たして結婚する気があるのでしょうか。なければ結婚したいと思える企画を是非してもらいたいと思います。あと、先程農業の話がありましたけど、今現在農業をしている独身の男性はいます。私も農業をやっているわけですけどはっきり言って暇がありません。先輩方から暇は作るものだと言われますが、収入を得るためには一生懸命働かなければいけない世の中ですので、今の政治や社会情勢が悪影響を与えていると思います。どこから変えるかとなっても、世の中の流れなので、櫛引から変えていくということもできないと思いますけど、結婚できない人、しない人には理由

があると思いますので、その理由を充分検討しながら、若い人、中堅、熟年の人という様々な世代が混ざった委員会を立ち上げていただきたいと思います。以上です。

会長

櫛引地域内で地域消防が成り立たない地区はありませんか？

伊藤 信委員

去年あたりから、代地区には消防が2班ありますが1班にしてくださいという話がありました。これから先を見ても若い団員入の見込が薄いということでありましたけど、山間部でありますので、いくら道路状況が以前より良くなったといっても、現場に着くのは地元の消防団が早いわけです。そう考えますと特に冬場は地域にポンプが2台は必要ということで、人員は減ってもいいので2班体制を維持しています。しかし、辞める団員もいます。他の地域もそうですけど、班長を努めたら辞める人が多いですが、入る団員がいなければ、団員に戻ってもいいのではという気持ちでいます。班長で辞めるのではなく、団員に戻って地区を守ってくださいと思っているのですが、なかなか歯止めがかかりません。

もう1つは西片屋地区で、ここも新入団員がおらずポンプ2台のうち1台無くしてほしいと言われましたが、西片屋地区を守るために、楯村の人が足りなくても、1人でも2人も団員がいれば片貝から回すようにして2班体制を維持するよう人員を確保してくださいと言っています。新入団員には自分の家を守るために消防をやり、自分の家を守ることは地区を守ることだと言っているのですが、なかなか難しいです。まず地域の方々からがんばってもらいまして、新入団員が入るよう働きかけてもらいたいです。よろしく願います。

会長

ほかにありませんでしょうか。意見出尽くしたようですので、質疑を終わります。色々皆さんから意見出たようですが、地域づくりの基本は人口がどう変化するか、増えるか減るか、これが大きな課題だと思います。今はただ自然に減っていくことを眺めることは出来ない状況です。そういうことにどう歯止めをかけるか。まず今年度については婚活の基本的な基礎調査をして次のステップに進み、それに関連して付随された課題があれば一緒に議論してまいりたいと思います。活発な意見も出ましたし、今後もよろしく願いいたします。私に与えられた進行についてはここまでとさせていただきます。

7 その他

8 閉会

(16時10分)

次長

長時間にわたって多くの貴重なご意見いただきありがとうございました。その他で準備している協議はございません。

以上を持ちまして平成22年度第1回櫛引地域審議会を閉会させていただきます。長時間にわたりお疲れ様でした。